

2025 年 11 月 11 日
一般社団法人日本テレワーク協会

5,868 票が選んだ「働き方 DX 表彰」9 事例を発表。

「5 年以上離職ゼロ」の文化、官民連携「防災 DX」など、働き方の未来がここに！

https://japan-telework.or.jp/news/newsrelease_20251111

一般社団法人日本テレワーク協会（所在地：東京都千代田区、会長：吉澤 和弘）は、本日、日本の働き方の未来を照らし出す、「働き方 DX 応援投票・表彰」受賞 9 事例を発表しました。

全国から集まった「熱い共感の声（一般投票：2,119 票）」と、「冷静な客観評価（パネル投票：3,749 票）」、合計 5,868 票もの声によって選ばれたのは、困難な課題を乗り越え、確かな成果を創出した DX 事例です。

合算最多得票数を獲得した「オーディエンス・チャンピオン賞」には、大分県日田市・富士フイルムシステムサービス㈱による官民連携の防災 DX が輝きました。

[働き方 DX 応援投票・表彰公式サイトはこちらから](#)

なぜ今、「働き方 DX」が日本の未来を左右するのか？ ～本表彰の背景～

少子高齢化による労働力不足、多様化する価値観、そして急速なデジタル化の波。日本企業は今、大きな変革期を迎えています。こうした時代認識のもと、日本テレワーク協会は、日本の働き方を継続的にアップデートするための戦略的な「価値創造サイクル」を推進しています。

【価値創造サイクル：日本の働き方をアップデートする仕組み】

1. 【調査】現状と課題を知る：「働きがい働きやすさアンケート」で全国のリアルな状況を把握。
2. 【事例】成功の知恵を学ぶ：先進企業の DX 成功事例を「働き方 DX 事例集」で共有。
3. 【研修】次の一步を踏み出す：国の基準や先進事例から学び、自社のアクションプランを策定。
4. 【表彰】称賛し、希望を広げる：本表彰で優れた取り組みを社会に広め、変革の輪を加速。

今回の「働き方 DX 応援投票・表彰」は、このサイクルの熱気を社会に伝え、次なる挑戦を後押しするための重要なステップです。「働きがい働きやすさ調査・推進委員会」（事務局：当協会）の協力のもと、日本の未来を切り拓くモデル事例を発掘・顕彰します。

5,868 の声を選んだ理由 ～独自性と信頼性を担保する選考プロセス～

本表彰が目指したのは、人気コンテストではなく、社会全体の手本となるべき取り組みを、公平かつ多角的に見出すこと。そのために、私たちは 2 つの異なる「ものさし」を用意しました。

- 一般投票 = 『熱量の評価』 従業員、顧客、地域住民... その取り組みに関わる人々の「心を動かしたか？」を測る共感の指標です。DX 推進の原動力となる「巻き込む力」の証明とも言えます。
- パネル投票 = 『客観評価』各社と利害関係のない、多様なバックグラウンドを持つ 1,067 名の調査会社に登録するパネラーが、その取り組みの「社会的な価値は何か？」を冷静に比較・吟味した評価です。

さらに、これらの声を最大限尊重しつつ、多様な価値を称えるため、「受賞階層ルール」という厳格な基準を適用。まず投票結果に基づく「最多得票数賞」を決定し、次にパネル投票上位の中から各賞を選定、最後に委員会審査による「特別賞」を加えることで、多角的で納得感のある選考を実現しました。

【輝く 9 つの事例紹介：日本の働き方 DX、最前線レポート！】

厳正なる選考の結果、未来への希望を感じさせる、以下の 9 つの素晴らしい事例が選ばれました。

■ 最多得票数賞：みんなが選んだ、時代の象徴！

1. オーディエンス・チャンピオン賞（合算投票数 第 1 位）

- 受賞：大分県日田市・富士フイルムシステムサービス株式会社
- ストーリー： 災害多発地域の行政と民間企業がタッグを組み、被災者の生活再建に不可欠な罹災証明書発行の所要時間を 57%も短縮する防災 DX を構築。多くの人々の「安全・安心」への願いを形にしたこの取り組みは、一般・パネル双方から圧倒的な支持を集め、見事合算 532 票を獲得しました。まさに、社会全体の共感が生んだチャンピオンです。

2. パネル・セレクション賞（パネル投票数 第1位）

- 受賞：JR九州システムソリューションズ株式会社（福岡県福岡市）
- ストーリー： 鉄道という社会インフラを支える企業のシステム会社が、社員の幸福度を追求するEX改革で、残業を9割減らし、売上は1.8倍に躍進。その着実で本質的な取り組みは、多様な視点を持つパネラーから最も高く評価され、パネル投票268票を獲得しました。社会の手本となるべき、普遍的な価値を持つ取り組みです。

■ 各賞：多様な切り口で光る、革新のモデルたち！

3. DXイノベーション賞（パネル投票数 2位）

- 受賞：株式会社日本海洋科学（神奈川県川崎市）
- ストーリー： 「未来の物流」が現実に！ライバル企業も含む53社が結集し、航行の98.5%を自律航行させることに成功。業界の垣根を超えた共創と、その技術的インパクトは、まさに日本のDXにおける革新モデルです。

4. ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン賞（パネル投票数 3位）

- 受賞：神奈川県横浜市
- ストーリー： 378万市民の暮らしが変わる！市民の声から生まれた子育て応援アプリ「パマトコ」は、オンライン手続きで区役所に行く手間を削減し、誰もが安心して子育てできる環境づくりに貢献した、DE&Iの先進事例です。

5. 生産性革命賞（パネル投票数 4位）

- 受賞：静岡県富士市・コニカミノルタジャパン株式会社
- ストーリー： ベテランの「匠の技」がAIで蘇る！言葉にしにくい“暗黙知”を人間の知恵で引き出し、AIが解析することで、誰もが学べるマニュアルへと変換。この独創的な技能伝承モデルは、多くの企業に生産性向上をもたらす可能性を秘めています。

6. ソーシャルグッド DX 賞（パネル投票数 5 位）

- 受賞：新潟県長岡市
- ストーリー：テクノロジーは、人を救うために。オンライン診療機能を搭載した車両が、“医療限界集落”を巡回。地域医療の持続という深刻な社会課題に DX で光を当てる、まさにソーシャルグッドな取り組みです。

7. 働きがいエンゲージメント賞（パネル投票数 6 位）

- 受賞：日本情報通信株式会社（東京都中央区）
- ストーリー：「社員の幸せ」を経営の核に据え、働き方 DX を徹底推進。その結果、エンゲージメントは 5 年で 53% 向上し、営業利益は倍増を達成。社員一人ひとりの Well-being と、企業成長を同時に実現したことが評価されました。

■ 働きがい働きやすさ調査・推進委員会 特別賞：困難を乗り越え、未来を創る希望の星！

（働きがい働きやすさ調査・推進委員会による審査で選定）

8. 委員会特別賞

- 受賞：株式会社スズキアリーナ大隅（鹿児島県曾於市）
- ストーリー：「働きやすさ」が「新事業」を生んだミラクル！ 地方の自動車販売店が、休日を増やした結果、残業を半減させたという独自の「働きやすさ改革」を断行。すると社員の意欲（働きがい）が高まり、IT 事業という新たな事業価値が誕生！ さらに採用難まで解決するという「改革の連鎖」を実践しました。特に地方・中小企業にとって、勇気と希望を与える変革ストーリーです。

9. 委員会特別賞

- 受賞：ヤマトカンキョウ株式会社（佐賀県佐賀市）
- ストーリー：「5 年以上、離職者ゼロ」という偉業！ これは偶然ではなく、「働きやすさ」と「働きがい」が両立する企業文化が、長年にわたり深く根付いている証。心理的安全性と公正な評価制度が、社員の「ここで働き続けたい」という想いを育んでいます。変革のスズキアリーナ大隅に対し、ヤマトカンキョウは「理想的な文化の持続」という、もう一つの重要な価値を示してくれました。

未来へつなぐ ～受賞事例が社会を変える力に～

[本日全 72 の働き方 DX 事例も最終公開！ぜひこちらもご覧ください。](#)

受賞された皆様、誠におめでとうございます。そして、惜しくも選外となった事例の中にも、日本の未来を照らす数多くの挑戦がありました。ご参加いただいた全ての企業・団体の皆様に、心からの敬意を表します。今回受賞された企業・団体には、2026 年 1 月 15 日、16 日に開催予定の「JTA アニュアルカンファレンス」等で、その貴重な知見を発表いただく予定です。

[「JTA アニュアルカンファレンス」参加申込はこちらから（受賞事例発表は 1 月 15 日です）](#)

日本テレワーク協会は、この「働き方 DX 応援投票・表彰」を含む「価値創造サイクル」を力強く回し続けることで、優れた取り組みが日本全国へ波及し、社会全体の生産性向上、そして一人ひとりのウェルビーイング向上に貢献できるよう、全力で取り組んでまいります。

【団体概要】

- 主催： 一般社団法人日本テレワーク協会
1991 年設立。テレワーク、多様で柔軟な働き方の普及推進を通じて、個人が活き活きと活躍できる社会の実現、企業の生産性向上、地域の活性化等に貢献。働き方 DX や人的資本経営を推進する、マインド、制度、文化を社会に醸成する「価値創造サイクル」を展開する。
- 協力： 働きがい働きやすさ調査・推進委員会
東京大学名誉教授 大西 隆を座長に、学識経験者、経済団体、産業団体等で構成され、総務省、厚生労働省、経済産業省がオブザーバー参加。日本テレワーク協会が推進する「価値創造サイクル」のうち、「全国調査」の実施・分析、および本表彰における「委員会特別賞」の審査・決定を担当。事務局は日本テレワーク協会。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

一般社団法人日本テレワーク協会

窓口メールアドレス：guide()japan-telework.or.jp ()を@に替えてください。